ハッピーワンポイント英会話

その22

" May I ･･･ ? "

「…してもよろしいですか？」

前回は、まだまだハワイに滞在したい気持ちを抑えて、タクシーでホノルル空港へ移動しました。

そして、ついに日本へ帰る時が近づいてきました。帰りの飛行機の搭乗手続きを済ませて、いよいよ飛行機に乗り込みます。

空港のチェックインカウンターにて

A) May I have an aisle seat please?
（通路側の席をお願いできますか？）

B) OK, let me check･･･（わかりました、調べますね）
All right, here is your seat H-22, aisle side.
（では、こちらのH－22のお席で通路側です）

A) Thank you. Is the jet crowded today?
（ありがとうございます。今日は、機内は込んでいますか？）

B) Well･･･ not so crowded. Enjoy your flight!
（そうですね。それほど込んでいません。楽しいフライトを！）

飛行機の中で

A) Excuse me, may I recline my seat?
【後方座席の人へ】（すみません、席を倒してもよろしいですか？）

B) Sure.【後方座席の人】（もちろん、どうぞ）

A) Hmm? It doesn't work well.（あれっ？　うまく倒せないわ）

B) Oh, push it back more.（もっと後ろに押してみたら？）

A) Yes. I got it!　Sorry to bother you.
（ああ、できました！　お騒がせしました）

B) No problem. Are you going back home?
（どういたしまして。帰国ですか？）

A) Yes. I'm really sad. I wish I could have stayed longer.
（はい。本当に残念です。もっと長く滞在できたらよかったです）

（その21）のフレーズ復習

"I wish I could ･･･"「…できればいいのに（できない）」

ハッピーデイズイングリッシュハウス　**大坪エミ**

今月の川柳

草かんむりに秋と書く萩は、古くから日本人に親しまれ、万葉集でも、最も多く詠まれた花である。

忙しい今日、たまには月を観たり、秋の七草を愛でるのもよい。

八女川柳会　**安達　昇**

創立25周年記念　東北大震災チャリティコンサート開催

男声合唱団八女グリーンクラブは、1985年、地元高校の同窓生を中心に7名の有志でスタート、クラブ名のグリーンは地元名産のお茶の緑をイメージして名付けたものです。

それから25年、県内でも数少ない一般市民の男声合唱ということで、テレビなどにも出演したり、県南地区の合唱祭や地元イベントへの参加、そして毎年恒例の施設慰問などの活動を続けてきました。

現在団員は八女市を中心に20代から70代まで30名、職業も教師・公務員・JA職員・会社員・自営業と様々で、練習を合わせるのが大変ですが、ゆかいな指揮者の丸山誠二郎先生の指導のもと、合唱を通じた強い連帯感で、なかよく練習を重ねてきました。

今回は、東北大震災の被災者応援を兼ねての開催と致しましたが、みなさんが慣れ親しんだ、日本の季節の歌、男声合唱ならではの重厚な組曲、歌謡曲を織り込んだメドレー、そしてゲストに若くかわいい、しかも本格的な管弦楽カルテットを挟みこんだ約2時間のプログラムになっています。

皆さんのご来場が、私達の元気の源ですので、是非お誘いあわせの上、ご来場ください。また、入団に興味のある方や、施設関係の方も、この機会に聴いて頂ければ幸いです。　連絡先　八女グリーンクラブ　代表　鶴　繁樹

日時　10月15日（土曜日）　午後5時半開場・6時開演
会場　八女市民会館「おりなす八女」

矢部ん元気も～ん

八女市矢部村中間の関コトエさんは今年8回目の卯年（歳女）を迎えた96歳。（大正4年9月15日生まれ）

76年前に大分県中津江の里から矢部の農家へ嫁ぎ7人の息子を育て、いまでは孫14人にひ孫17人。

目も耳も達者。なんでもおいしく食べられるとのこと。

お天気が良い日には、畑仕事、ひまには指さき運動をかねてのぬいぐるみづくり。

週に一回、「ゆいのもり」に出かけ、体操をしたり出会った人と話したり聞いたりこれもまた楽しみ

取材をした私も卯年。コトエさんの半分の人生。（S.原島）

「ふれあい農業体験」　八女農業高等学校

「夢たちばな子ども体験塾」（八女市立花支所主催）が、８月27日に八女農業高校北山農場であり、地域の小学生22名が参加しました。１・２年生はバター作り、鶏の卵からヒヨコ誕生までの学習体験（命の観察・生命誕生）、ポニー乗馬と餌やり、３年生から６年生は牛乳の搾乳体験と餌やり、ブドウの収穫と糖度測定、農業機械の操作体験などいろいろな農業体験をしました。子ども達は初めての体験でとまどいもありましたが、本校の生徒・職員がやり方をやさしく教えながらすすめていきましたので、すぐに慣れて、子ども達から「今日は楽しかった！」と感想を述べてくれました。今回の体験を通して、命の大切さや農業のすばらしさを感じてもらえたと思います。

（八女農みらい館）10月の開館日
４日（火）、７日（金）、14日（金）、18日（火）、21日（金）、25日（火）
販売時間は、10時30分～15時30分です。

なでしこジャパンのワールドカップ初優勝からたくさんの感動をもらった今年の夏、彼女たちも小さい頃は未来を夢見る少女でした。（社）八女青年会議所では小学生ＰＫ大会を開催します。テレビゲームでは味わえない勝負の醍醐味、勝つことの喜びと敗者をいたわる優しさ、自分と仲間を信じてプレーする子どもたちを応援してください。当日はアビスパ福岡のコーチによるサッカー教室も実施します。

日時　10月16日（日）13時
開場（仮）吉田グラウンド（吉田信号西へ入ってすぐ）
お問い合わせ　ＴＥＬ０９４３―２４―４０２２（八女ＪＣ事務局）

輝く

10月8日から開催される秋季国体「第66回山口国体」女子成年ソフトボール福岡県代表チーム選手の中村早織さん。筑後市出身、ひとつ年上のお兄ちゃんとボール遊びが大好きだった少女で、少年野球チーム（筑後少年野球育成会所属　西牟田ジャガーズ）の門をたたいたのは小学校４年生（10歳）のとき。当時は、女の子がプレイするのはまだ珍しく「おてんば娘」の観が強い時代でもあったと言う。ここで、楽しむ野球を経験できたことにより兄弟で野球づけの少女期を過ごし、球技を好きになるきっかけとなった。中学生からソフトボールへ転向、強豪三潴高校に進学し、同校卒業後は実業団（東芝北九州）への道に進み現在に至る。

少年女子代表から通算すれば早10年、今も尚スタメン選手として活躍し、チーム内では後輩達の指導や、ムードメーカーも努める存在である。青春時代をソフトボール競技にかけた彼女に「辛いことや、他にやりたいことはないですか？」と聞くと、勝負師の目からやさしい目に変わり「好きなことをやらせてもらい、大勢の方々に応援して戴いていますから…」と感謝の言葉が返ってきた。彼女の育ちの良さと人柄が垣間見えた。また、今年の12月も恒例となった筑後市主催ソフトボール教室が筑後広域公園で開催される予定だが、そこでも後輩の指導に尽力されるのは間違いない。今後もいろんな面での貢献が期待される。27歳の独身。写真は九州ブロック予選（８月20日佐賀市）の応援に来られた少年野球時代の監督さんとのスナップ。